

アンケート調査結果

一般用

2 一般用調査結果

(1・アンケート調査協力者について)

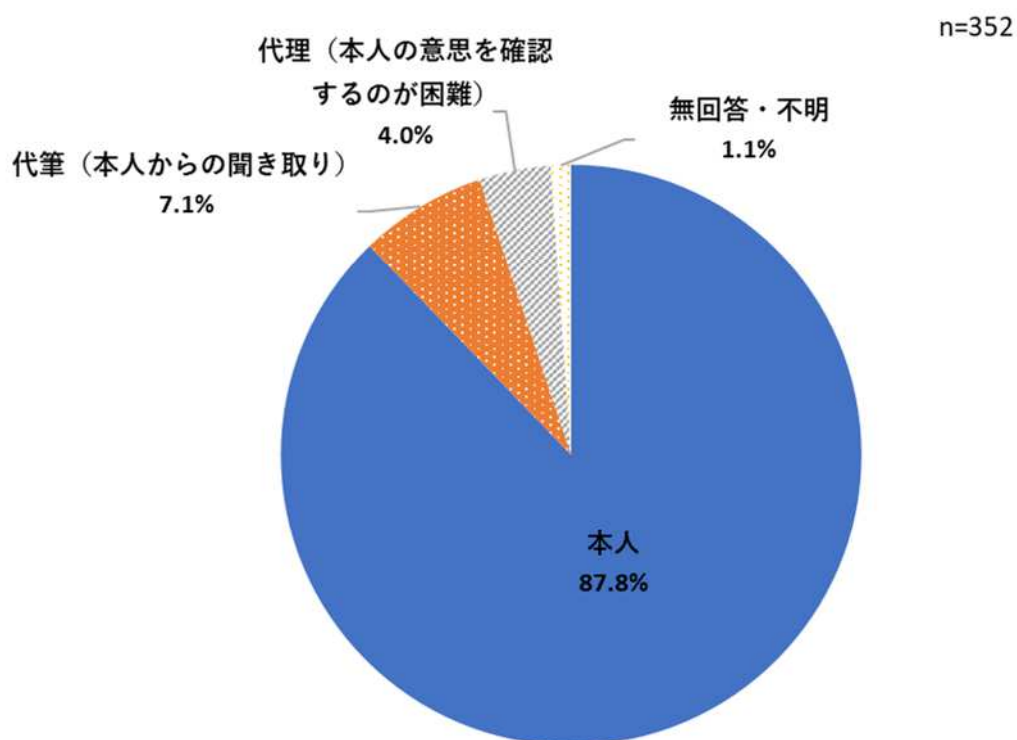
問1 このアンケートはどなたが記入されますか。

(1つだけを○で囲む)

調査の回答者は、「本人」が87.8%

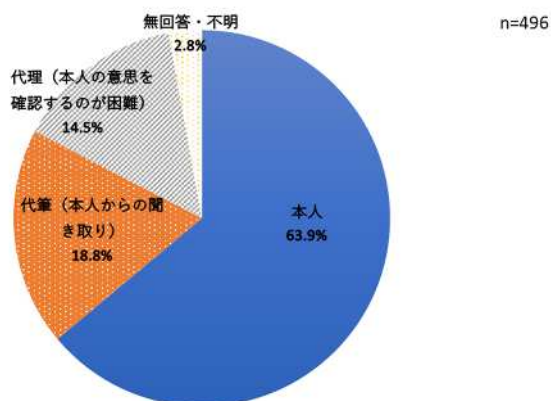
アンケート調査の回答者は、「本人」が87.8%、「代筆（本人からの聞き取り）」が7.1%、「代理（本人の意思を確認するのが困難）」が4.0%となっています。

【全体】アンケート調査回答者



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「本人」が20%以上多くなっています。



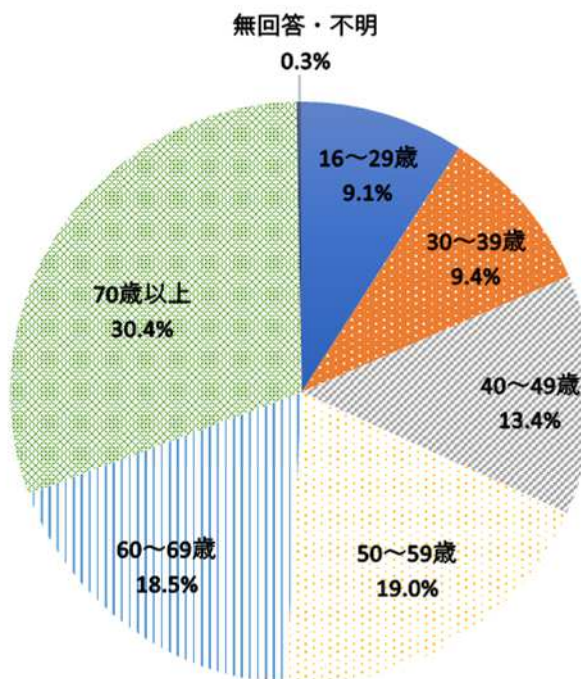
問2 あなたの年代を記入してください。

回答者の年齢は、「70歳以上」が約3割

アンケート調査の回答者の年代は、「70歳以上」が30.4%で最も多く、これに「50～59歳」が19.0%、「60～69歳」が18.5%が続いています。

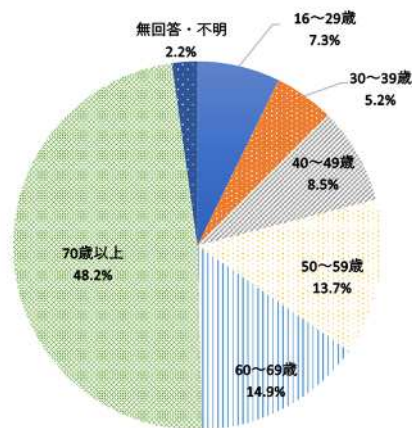
【全体】回答者年代

n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「70歳以上」が17.8%少なくなっています。



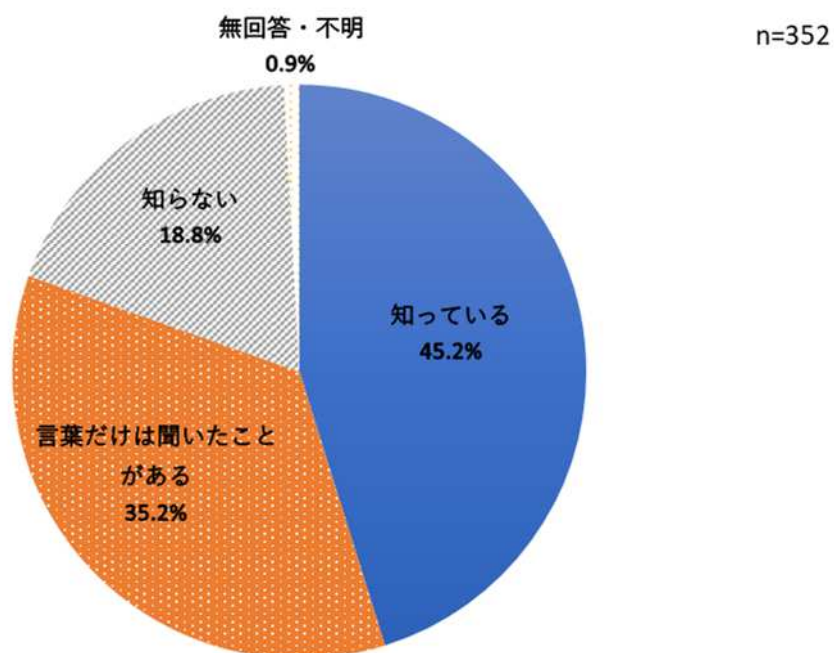
(2.障害者に対する意識について)

問3 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支えあって暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。

「知っている」「言葉だけは聞いたことがある」合わせると約8割

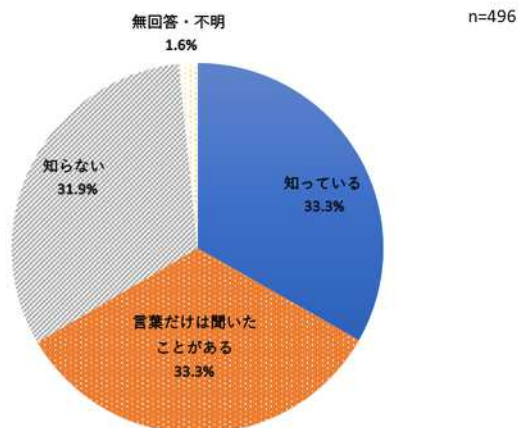
「共生社会」という考え方を「知っている」と回答した人が45.2%で最も多く、これに「言葉だけは聞いたことがある」が35.2%、「知らない」が18.8%が続いています。

【全体】「共生社会」を知っているか



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「知っている」と回答した人が10%以上多くなっています。



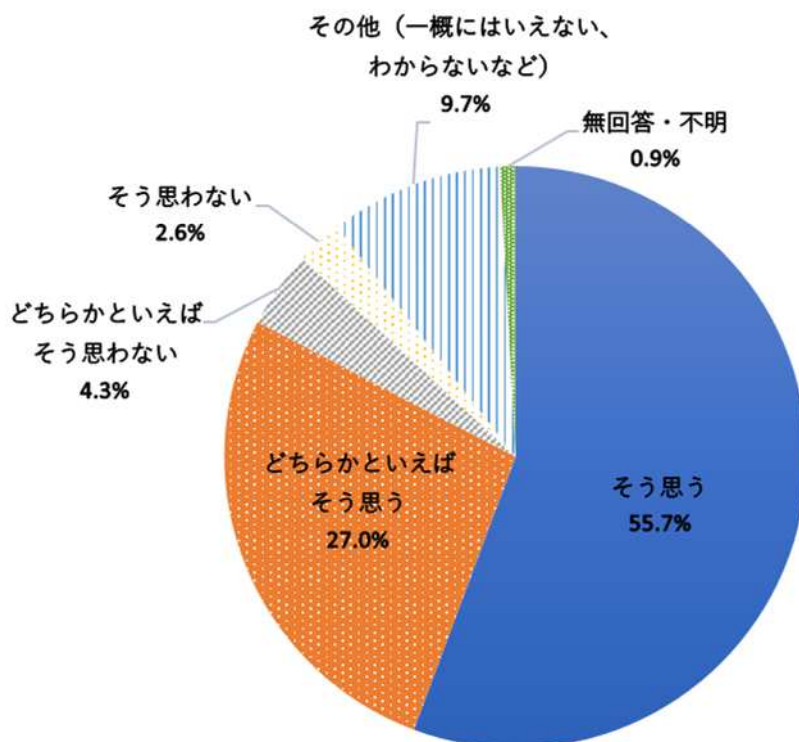
問4 市では「共生社会」の考え方に基づいて、障害のある人もない人も共に生活できるための環境作りを進めています。あなたは、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について、どう思いますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」合わせると8割以上

「共生社会」という考え方について「そう思う」と回答した人が55.7%で最も多く、これに「どちらかといえばそう思う」と回答した人が27.0%が続いています。

【全体】「共生社会」の考え方

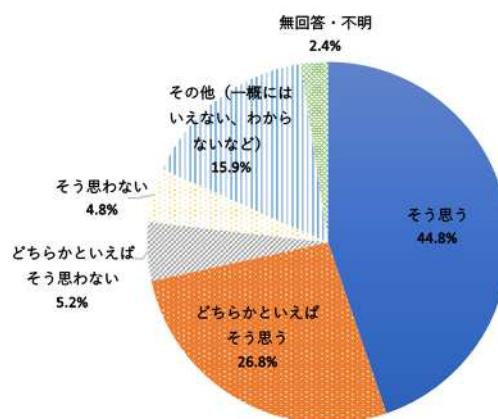
n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「そう思う」と回答した人が10%以上多くなっています。

n=496



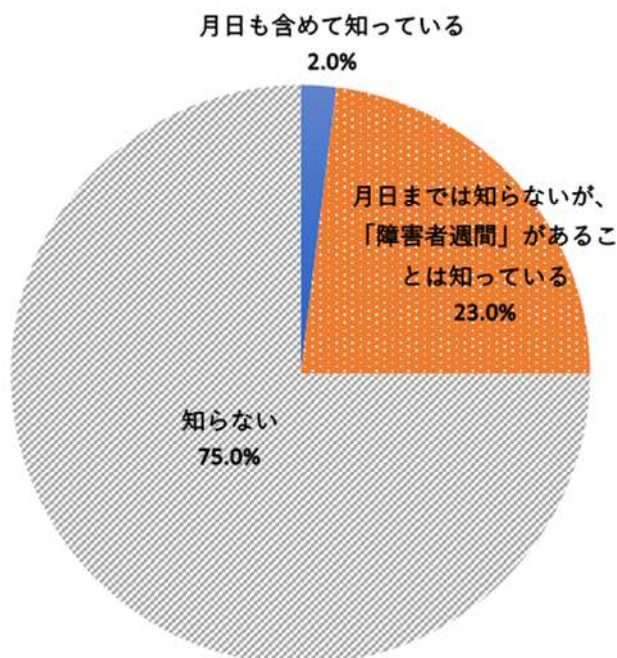
問5 市では、障害や障害のある人に関する理解と関心を深め、障害のある人の社会参加への意欲を高めるために、国が毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」と定めている中で、さまざまな取り組みを行っています。あなたは、「障害者週間」を知っていますか。

障害者週間を「知らない」が7割以上

「障害者週間」を「知らない」と回答した人は75.0%で最も多くなっています。「月日までは知らないが「障害者週間」があることは知っている」は23.0%、「月日も含めて知っている」は2.0%となっています。

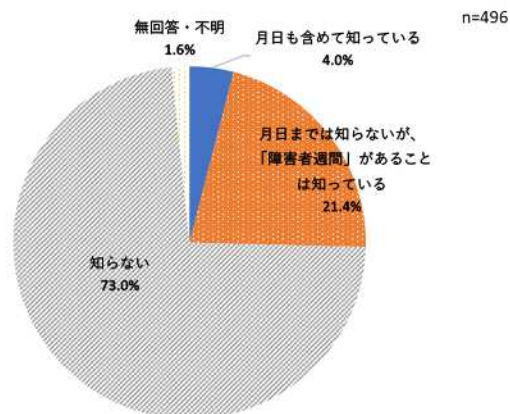
【全体】「障害者週間」を知っているか

n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査の結果と概ね一致しています。



問5で「知っている」と答えた方に伺います。

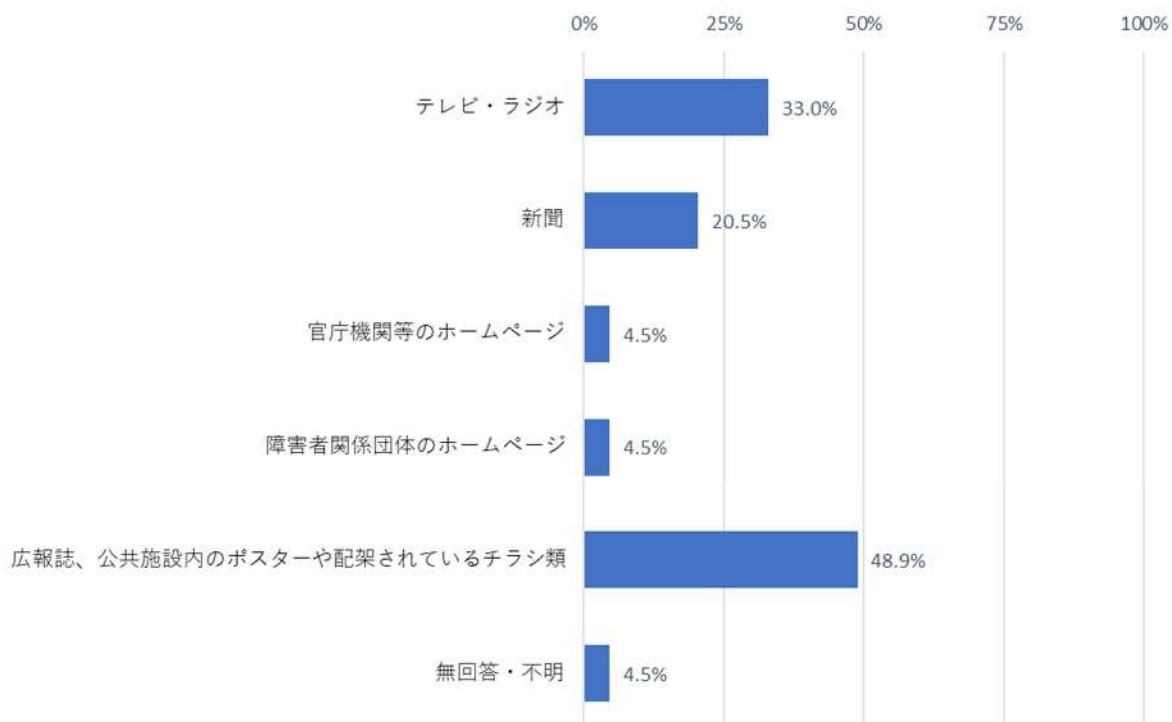
問5-1 それは何によって知りましたか。(あてはまるものすべてを○で囲む)

「広報誌、ポスター、チラシ類」が最も多い

「障害者週間」を「広報誌、公共施設内のポスターや配架されているチラシ類」で知ったが48.9%で最も多く、これに「テレビ・ラジオ」が33.0%、「新聞」が20.5%が続いています。

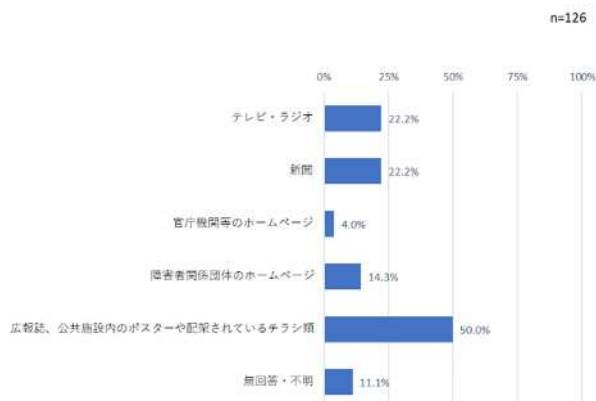
【全体】「障害者週間」を何で知ったか

n=88



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると「テレビ・ラジオ」が10%以上多く、「障害者関係のホームページ」が約10%少なくなっています。



問6 市では「障害者週間」を中心に障害のある人に対する理解を深めるために、さまざまな行事や催しを行っています。あなたはこのような行事や催しへ参加したことはありますか。

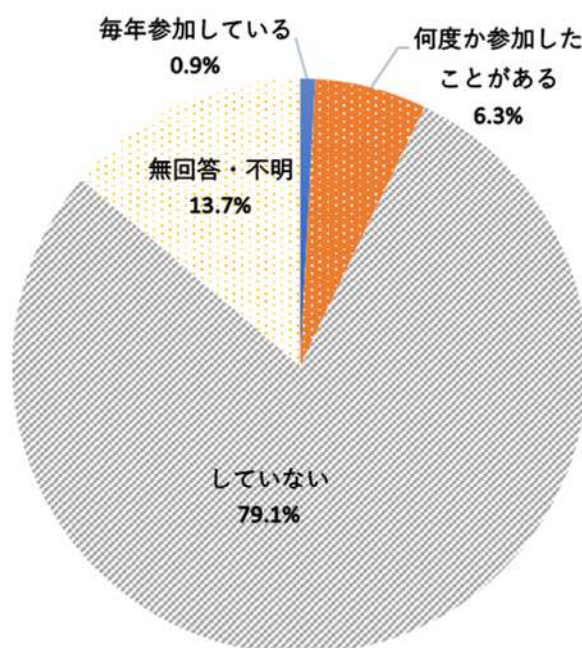
行事や催しに「参加していない」が約8割

障害のある人に対する理解を深めるための行事や催しに「参加していない」人が79.1%で最も多くなっています。

参加していない理由として、「仕事が忙しいため」「高齢のため」「いつ・どんな行事が行われているか知らないため」などがあげられています。

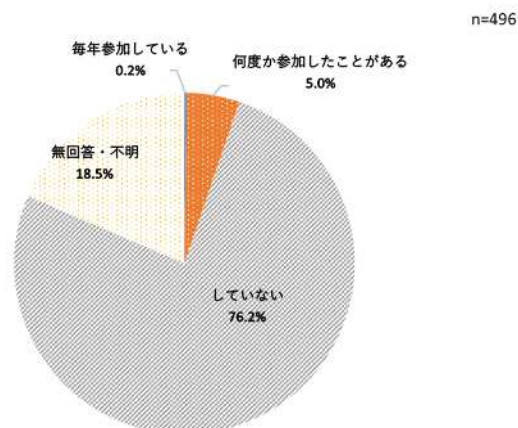
【全体】行事や催しへの参加

n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査の結果と概ね一致しています。



問6で「参加していない」と答えた方に伺います。

問6-1 どのような行事や催しなら参加してみたいと思いますか。

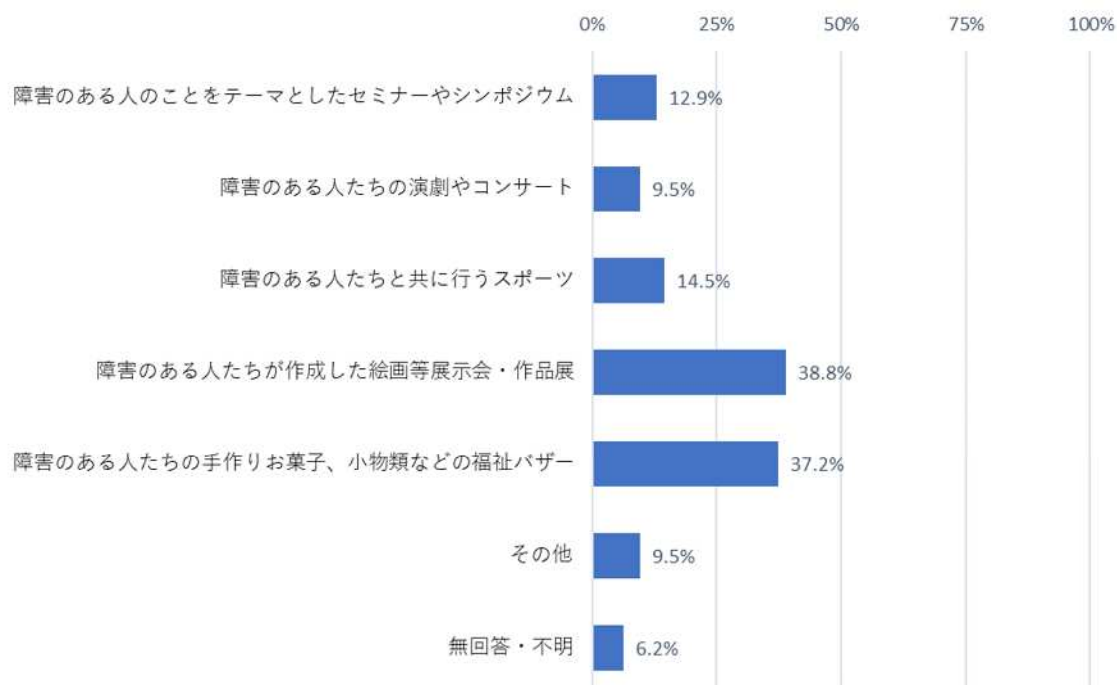
(あてはまるものすべてを○で囲む)

「絵画等展示会・作品展」が最も多い

参加してみたい行事や催しは、「障害のある人が作成した絵画等展示会・作品展」が38.8%で最も多くなっています。これに「障害のある人たちの手作りお菓子、小物類などの福祉バザー」が37.2%で続いています。(参考：障害者手帳所持者用調査結果 P.12)

【全体】参加してみたい行事や催し

n=325



その他・自由記載より

※ 原文のまま掲載しています。

- ・東京?で開催された一般の健常者と障害者が逆転した飲食店のイベントは興味深かった。
- ・「障害がある人たちの」とくくらず、共に行う内容で。スポーツ以外に!
- ・体験。自分たちが見えなかったり歩けなかったりした時の体験をしてみたい。
- ・お祭り(出店があるもの)など。
- ・映画上映・令和三年度に行った事。点字体験。盲導犬。
- ・教育として学校などで行なうならいいが、なかなか仕事のある人達が参加するのは正直難しいと思う。会社の組織に直接行事の参加を依頼する方が、雇用する側もより深く理解ができると思う。
- ・どんなものでもエンターテインメント性のある行事。(参加してシンプルに楽しめるもの)
- ・障害のある人を特別扱いしない催し。
- ・障がいのある人と子どもがコミュニケーションをとれる企画。

問7 あなたは、障害のある人が困っているようなとき、手助け（声かけ、荷物等の持ち運び、横断歩道など渡るときの付き添いなど）をしたことがありますか。

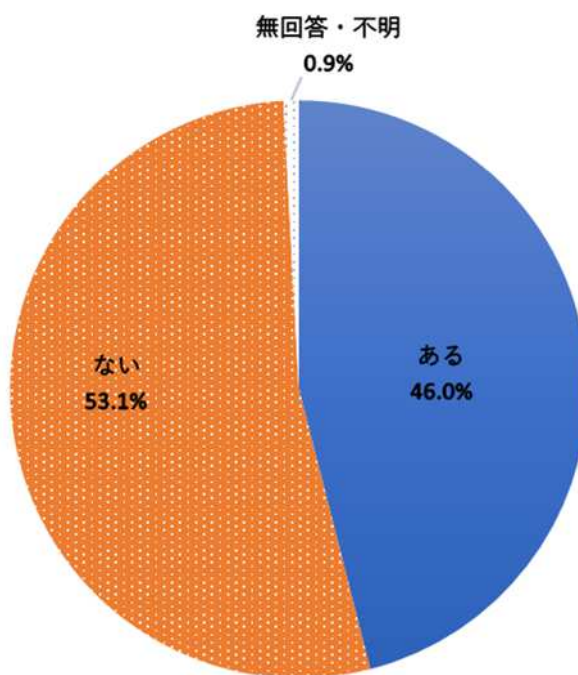
全体では、手助けしたことが「ない」が5割以上

全体では、障害のある人が困っているとき、手助けしたことが「ない」と回答した人は53.1%で、「ある」と回答した46.0%より多くなっています。

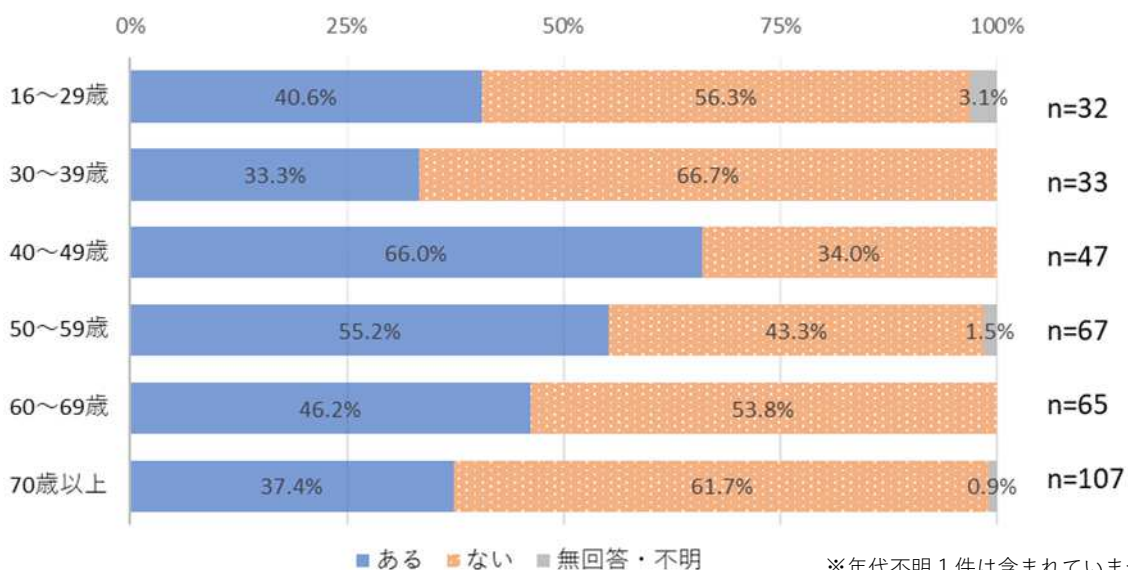
年代別にみると、40代と50代では、手助けしたことが「ある」が多くなっています。

【全体】 障害のある人を手助けしたことがあるか

n=352



【年代別】



※年代不明1件は含まれていません

問7で「ある」と答えた方に伺います。

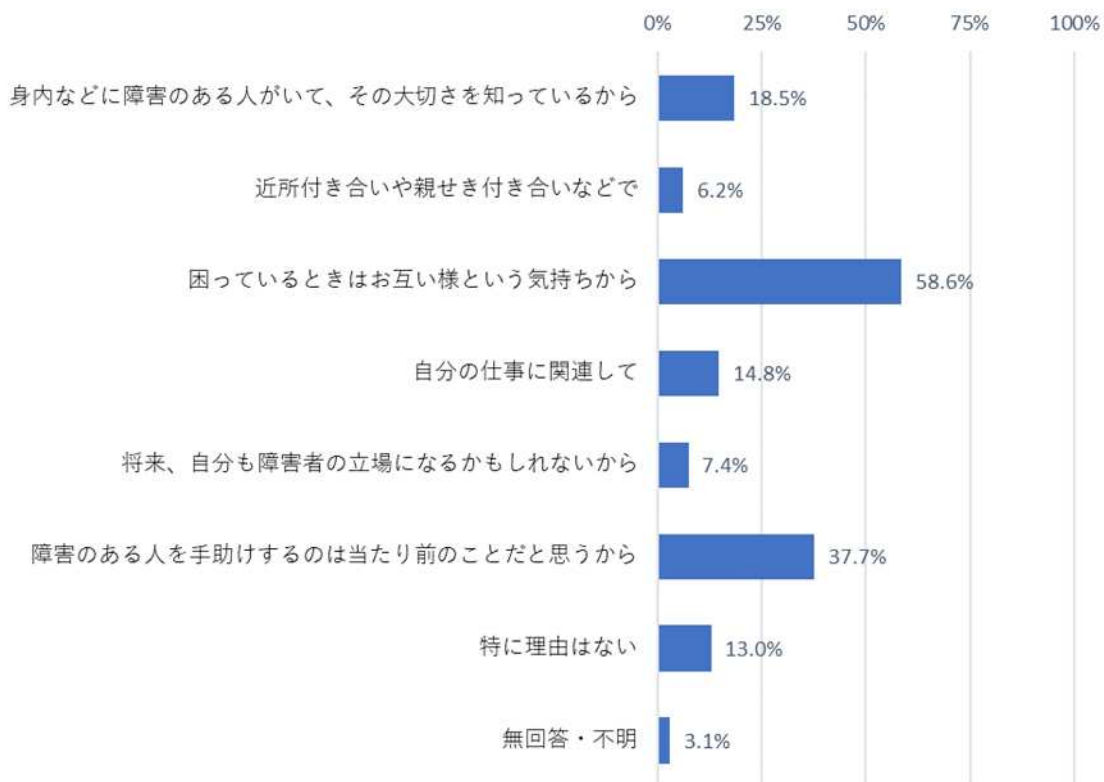
問7-1 それはどのような気持ちからでしょうか。（あてはまるものすべてを○で囲む）

「困っているときはお互い様という気持ちから」が最も多い

手助けしたことがあるのは「困っているときはお互い様という気持ちから」と回答した人が58.6%で最も多く、これに「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」と回答した人が37.7%で続いています。

【全体】手助けしたことがあるのは、どのような気持ちからか

n=162



問7で「ない」と答えた方に伺います。

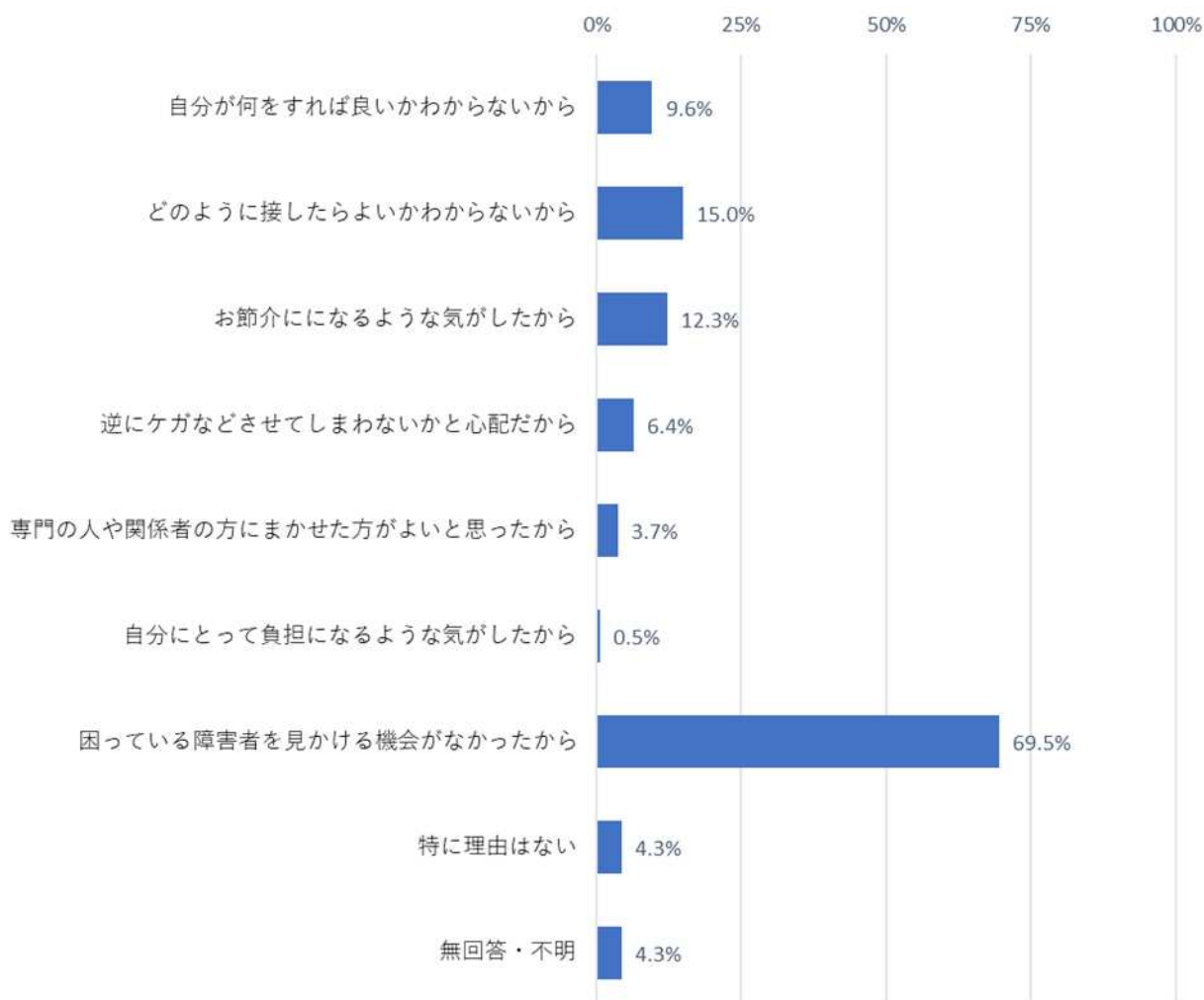
問7-2 それはどのような気持ちからでしょうか。（あてはまるものすべてを○で囲む）

「困っている障害者を見かける機会がなかったから」が約7割

手助けしたことがないのは「困っている障害者を見かける機会がなかったから」と回答した人が69.5%で最も多くなっています。これに「どのように接したらよいかわからないから」が15.0%、「お節介になるような気がしたから」が12.3%が続いています。

【全体】手助けしたことがないのは、どのような気持ちからか

n=187

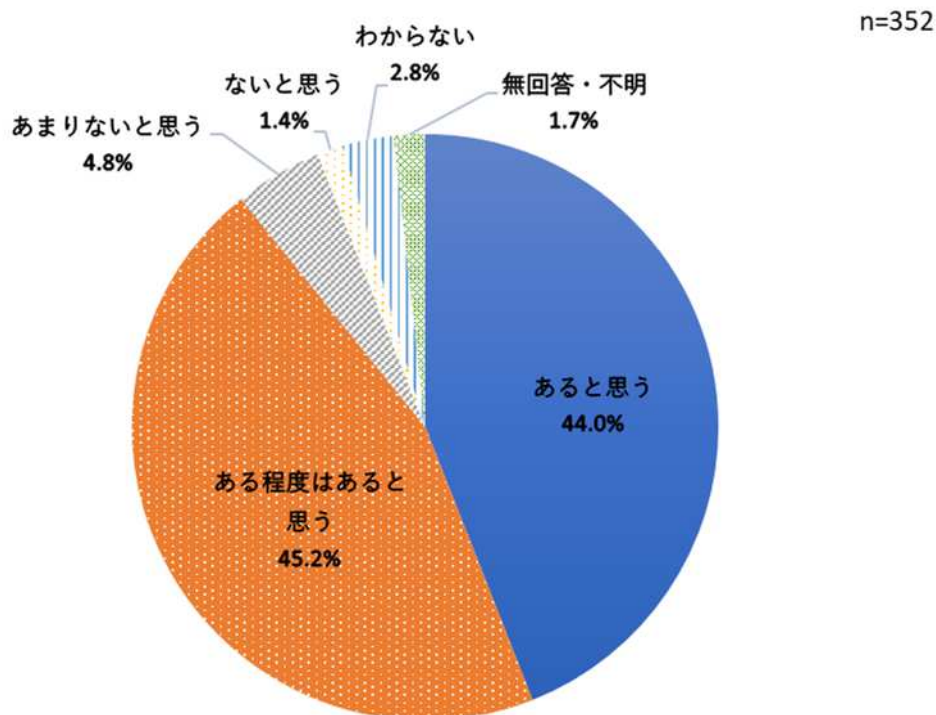


問8 あなたは、世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。
(1つだけを○で囲む)

差別や偏見が「あると思う」「ある程度はあると思う」合わせると約9割

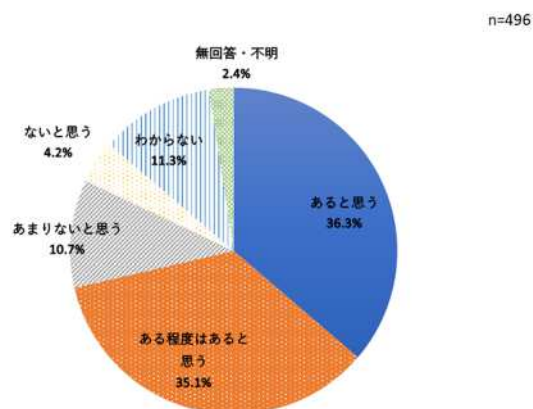
差別や偏見が「ある程度はあると思う」と回答した人が45.2%で最も多く、これに「あると思う」が44.0%が続いています。

【全体】差別や偏見があると思うか



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「あると思う」「ある程度あると思う」と回答した人が多く、「ないと思う」「あまりないと思う」が少なくなっています。



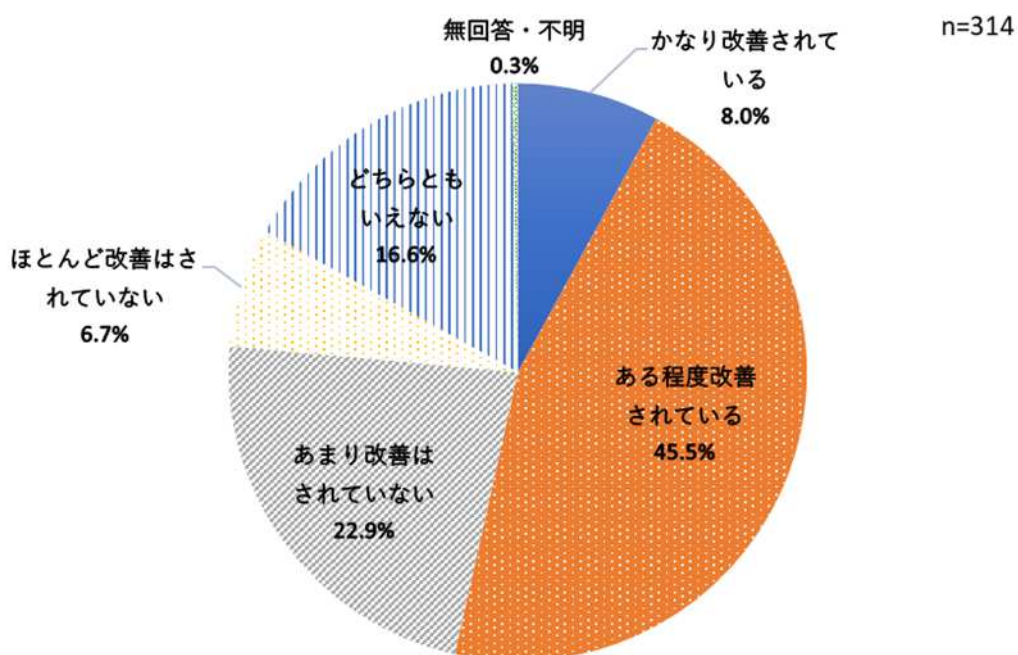
問8で「あると思う」と答えた方に伺います。

問8-1 障害のある人に対する差別や偏見は、ここ数年の中で改善されていると思いますか。
(1つだけを○で囲む)

差別や偏見が「ある程度改善されている」が最も多い

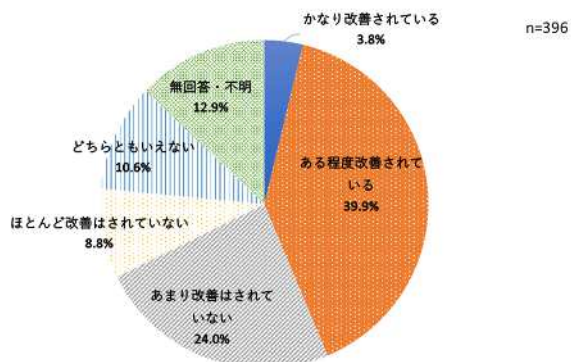
差別や偏見が「ある程度改善されている」と回答した人が45.5%で最も多く、これに「あまり改善されていない」が22.9%、「どちらともいえない」が16.6%が続いています。

【全体】差別や偏見は改善されていると思うか



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「かなり改善されている」「ある程度改善されている」「どちらともいえない」と回答した人がわずかに多くなっています。



(3.障害者関連施策について)

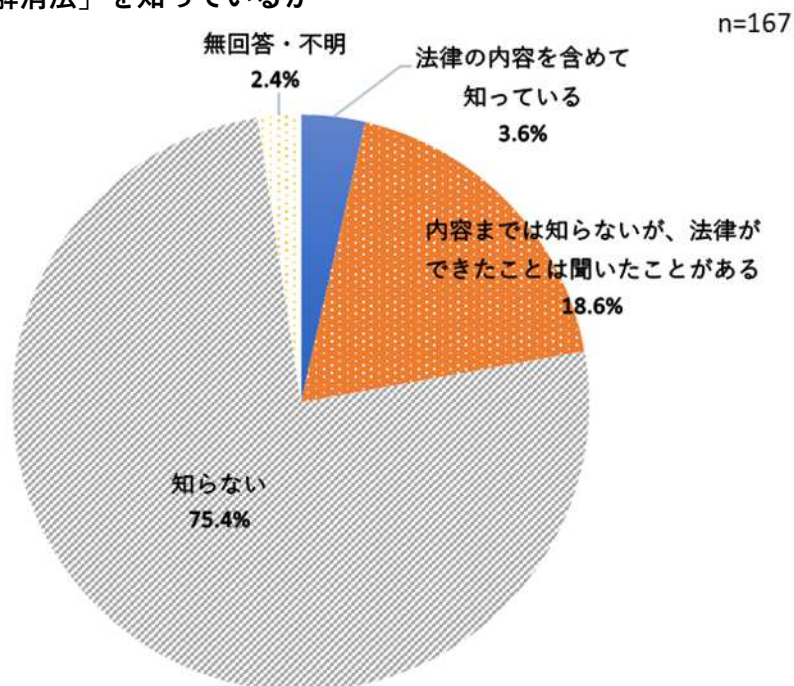
問8で「あまりないと思う」「ないと思う」「わからない」と答えた方に伺います。

問9 障害のある人もない人も、互いに、その人のらしさを認め合いながら共に生きる社会づくりを目指すため、平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行されています。あなたは、この法律を知っていますか。(1つだけを○で囲む)

障害者差別解消法を「知らない」が7割以上

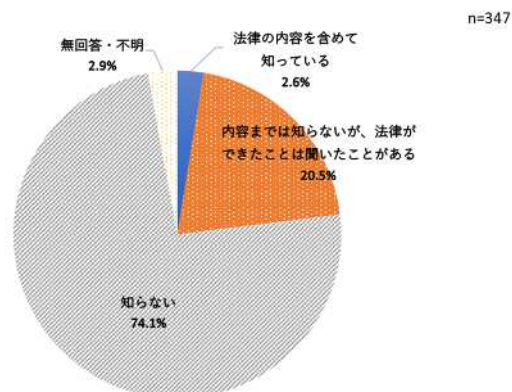
「障害者差別解消法」を「知らない」と回答した人は75.4%と最も多くなっています。「内容までは知らないが、法律ができたことは聞いたことがある」人は18.6%、「法律の内容を含めて知っている」人は3.6%となっています。

【全体】「障害者差別解消法」を知っているか



<参考>

障害者手帳所持者用調査の結果と概ね一致しています。



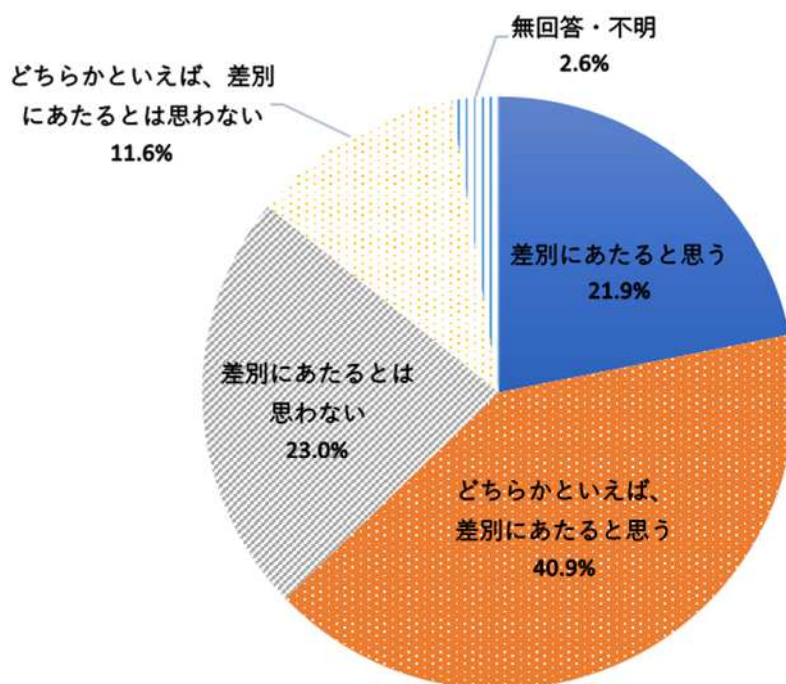
問10 あなたは、もし、行政機関や会社やお店などの事業所が「合理的な配慮や工夫」を行って
いなかったとしたら、それが「障害のある人への差別」にあたると思いますか。

「差別にあたると思う」「どちらかといえば差別にあたると思う」合わせると6割以上

「合理的な配慮や工夫」を行っていなかったとしたら、「どちらかといえば、差別にあたると思う」と回答した人が40.9%で最も多くなっています。これに「差別にあたるとは思わない」が23.0%、「差別にあたると思う」が21.9%が続いています。

【全体】「合理的な配慮や工夫」を行っていなかったら差別にあたると思うか

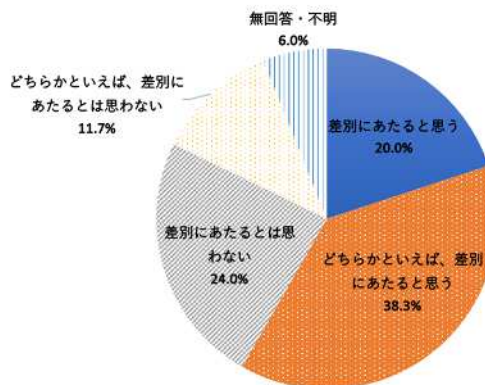
n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査の結果と概ね一致しています。

n=496



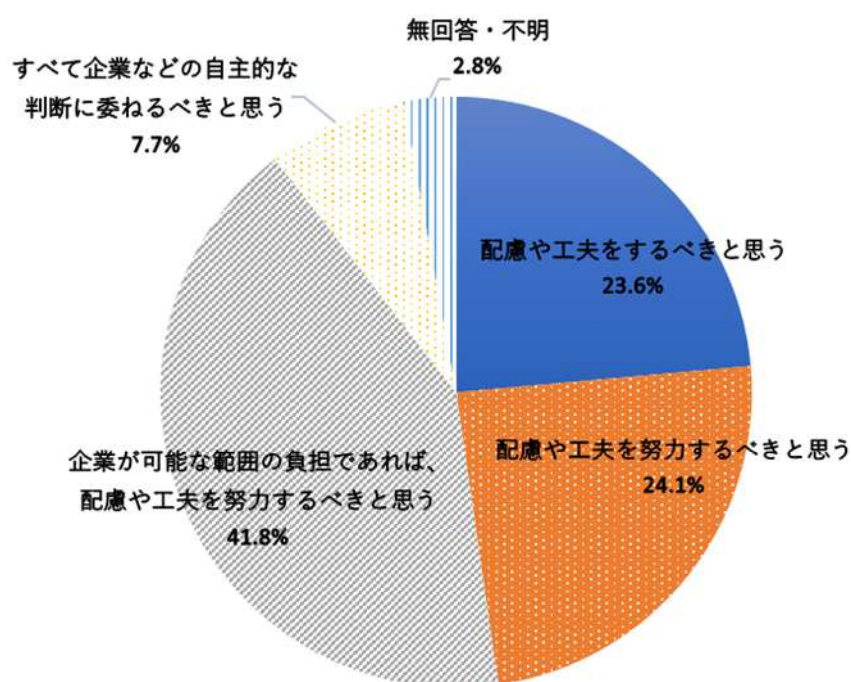
問11 障害のある人が、障害のない人と同じように生活していくためには、様々な配慮や工夫が必要となります。一方、こうした配慮や工夫を行うには、経済的な負担を伴う場合もあります。企業などがこうした配慮や工夫をどの程度行うべきと思いますか。

「配慮や工夫をするべき・努力するべき・可能な範囲で努力するべき」合わせると約9割

「企業が可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を努力するべきと思う」が41.8%で最も多く、これに「配慮や工夫を努力するべきと思う」が24.1%、「配慮や工夫をするべきと思う」が23.6%が続いています。

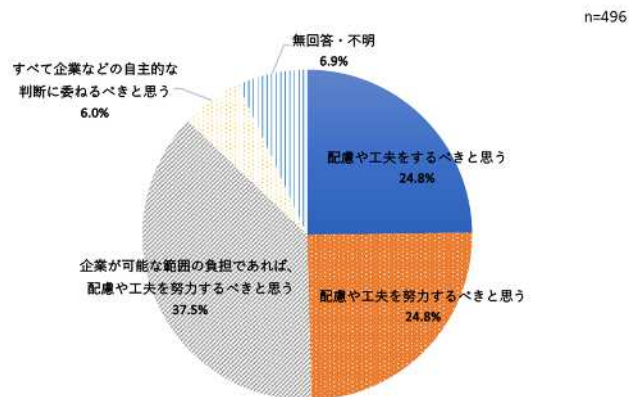
【全体】 配慮や工夫をどの程度行うべきと思うか

n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「企業が可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を努力するべきと思う」がわずかに多くなっています。



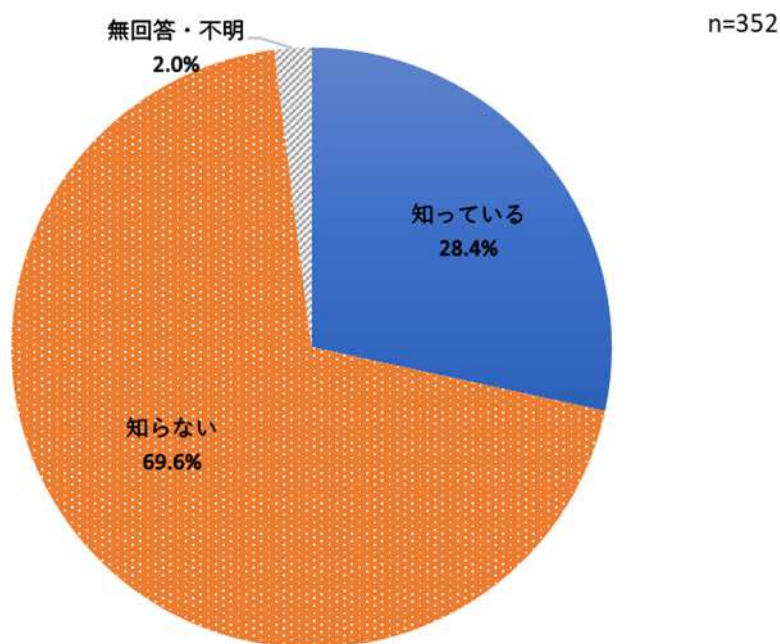
問12 市では、令和4年度から「富士市手話言語条例」を施行しましたが、この条例の中で、ろう者（※1）にとって互いの意思疎通する手段には「手話は言語」であるということを広く周知をしていくことを主としています。知っていますか。

※1：ろう者…手話を母語もしくは主なコミュニケーションとしている人

「知っている」28.4%、「知らない」69.6%

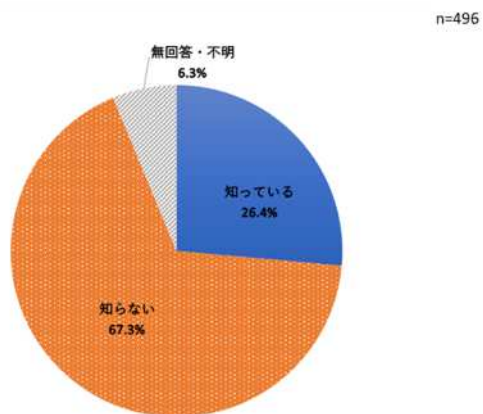
富士市手話言語条例の中の「手話は言語」であるということについて「知っている」は28.4%、「知らない」は69.6%となっています。

【全体】「富士市手話言語条例」の「手話は言語」について知っているか



<参考>

障害者手帳所持者用調査と概ね一致しています。



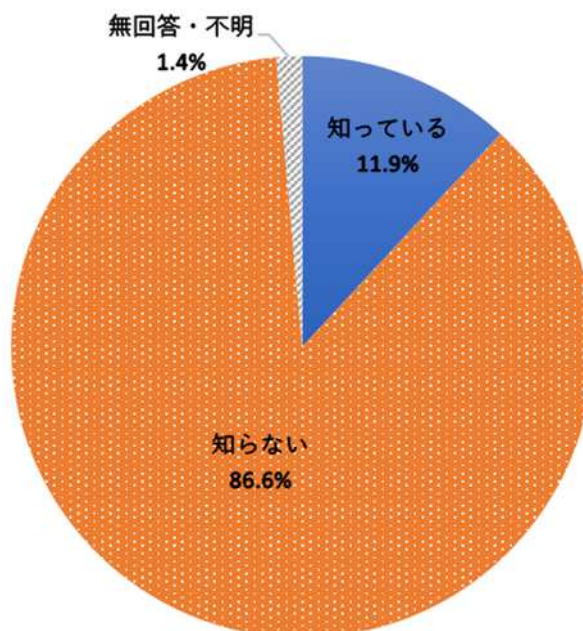
問13 市では、富士市手話言語条例を、市民に広く周知啓発をしていくことで、「9月23日は手話言語の国際デー」にちなんで、富士川サービスエリア内の大観覧車をシンボルカラーである「ブルーライト」にライトアップしていますが、知っていますか。

「知っている」11.9%、「知らない」86.6%

9月23日の手話言語国際デーに富士川サービスエリア内の大観覧車がブルーにライトアップされることを「知っている」は11.9%、「知らない」は86.6%となっています。

【全体】手話言語国際デーのライトアップを知っているか

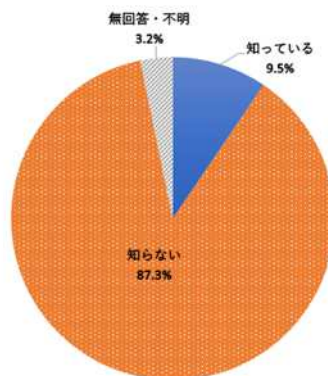
n=352



<参考>

障害者手帳所持者用調査の結果と概ね一致しています。

n=496



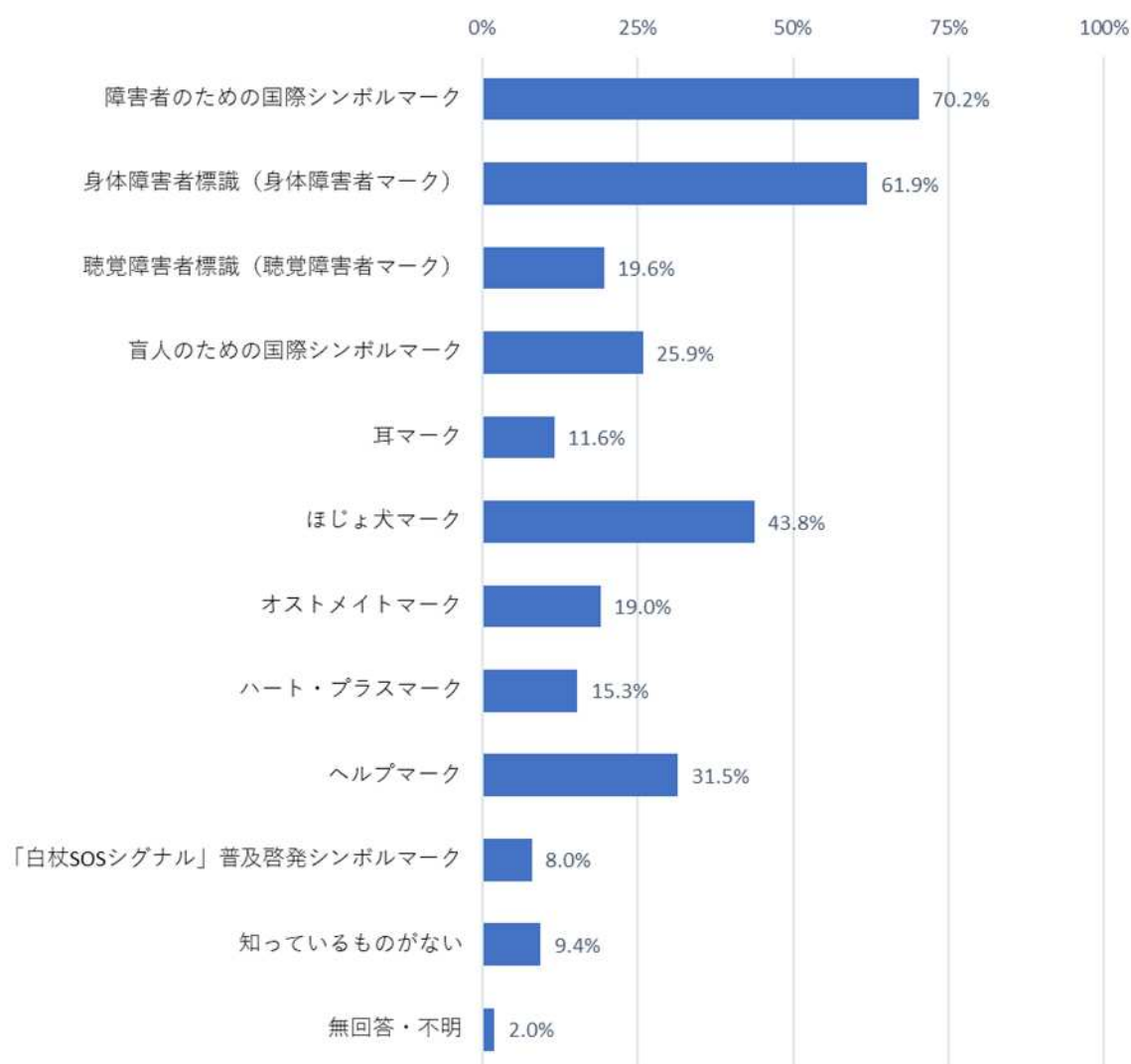
問14 障害者を支援するためのさまざまなマークがありますが、以下のマークで知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてを○で囲む)

知っているマークは「障害者のための国際シンボルマーク」が最も多い

知っているマークは「障害者のための国際シンボルマーク」が70.2%で最も多く、これに「身体障害者マーク」が61.9%、「ほじょ犬マーク」が43.8%、「ヘルプマーク」が31.5%で続いています。(参考：障害者手帳所持者用調査結果 P.20)

【全体】 障害者支援のためのマークで知っているものはあるか

n=352



(4.障害者の方の日常生活について)

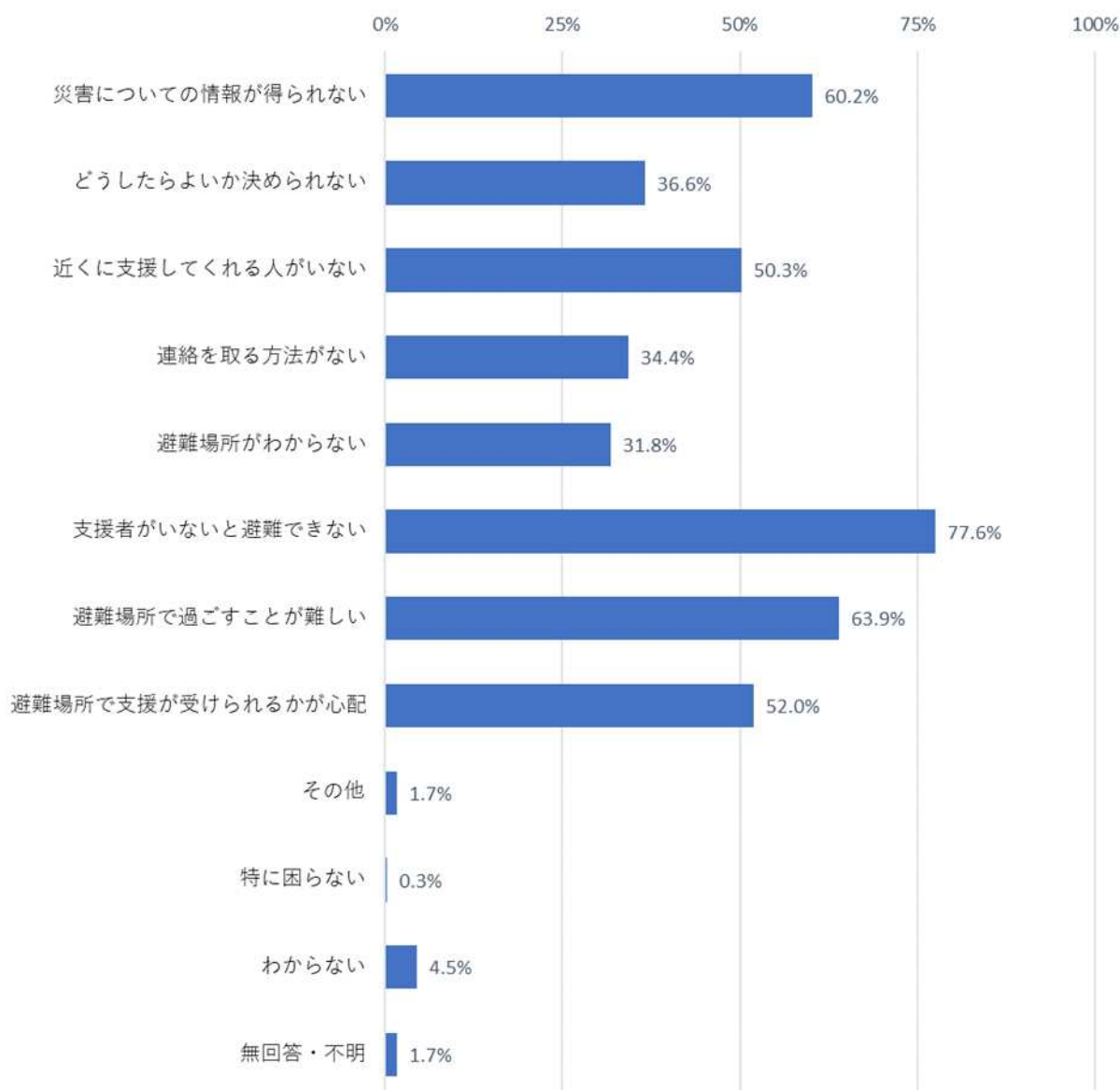
問15 あなたは、障害者の方が、もし、災害が起きたとき、どんな点に困ると思いますか。
(あてはまるものすべてを○で囲む)

「支援者がいないと非難できない」が最も多い

「支援者がいないと非難できない」と回答した人が77.6%で最も多く、これに「避難所で過ごすことが難しい」が63.9%、「災害についての情報が得られない」が60.2%が続いています。(参考：障害者手帳所持者用調査結果 P.39)

【全体】災害が起きたときどんな点に困ると思うか

n=352



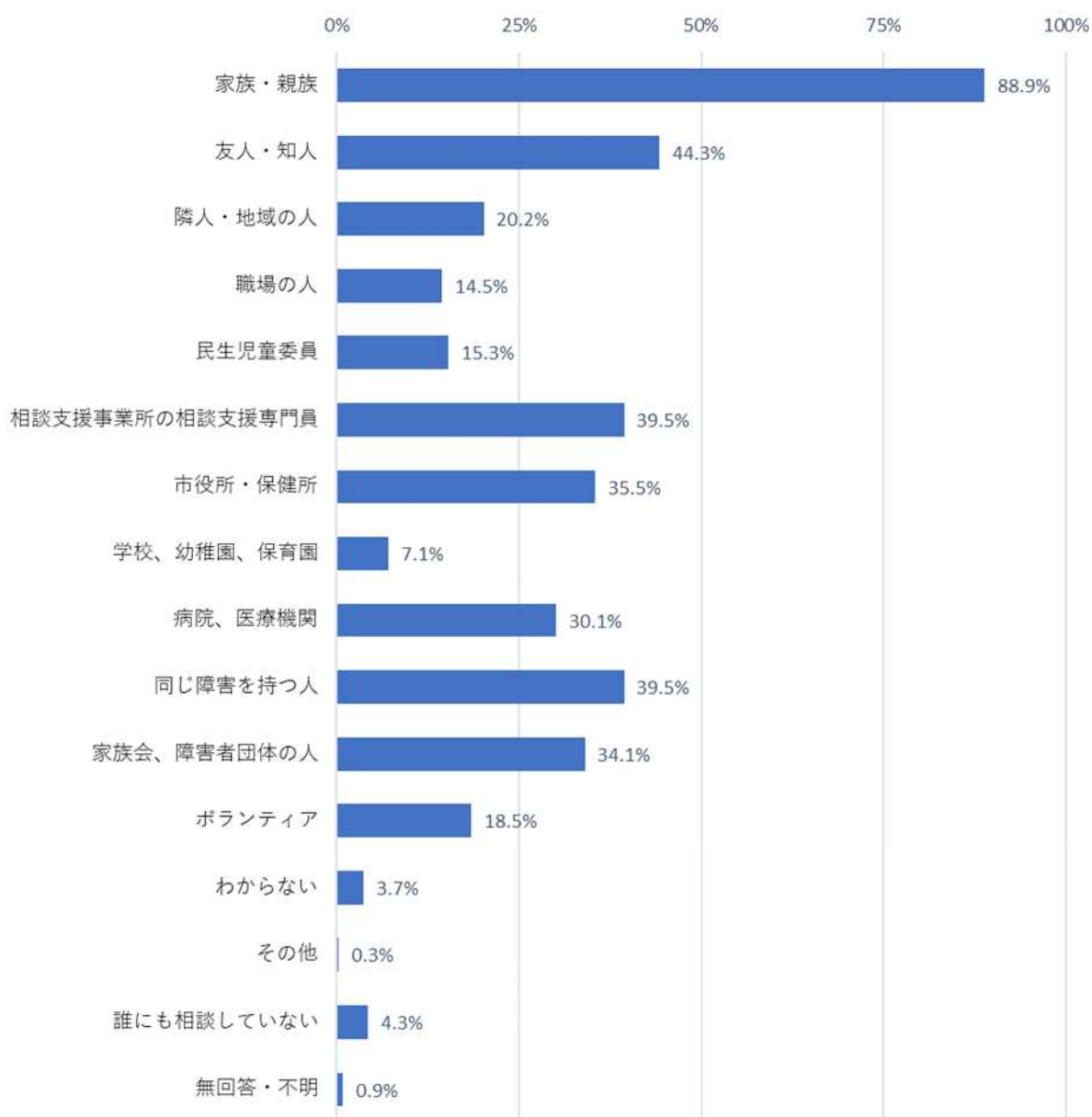
問16 あなたは、障害者の方が、困ったり不安に思う時など誰に相談していると思いますか。
(あてはまるものすべてを○で囲む)

相談先については「家族・親族」が最も多い

障害者の方の相談先について、「家族・親族」に相談していると思うと回答した人が88.9%で最も多く、これに「友人・知人」が44.3%、「相談支援事業所の相談支援専門員」「同じ障害を持つ人」が39.5%で続いています。(参考：障害手帳所持者用調査結果 P.35)

【全体】誰に相談していると思うか

n=352

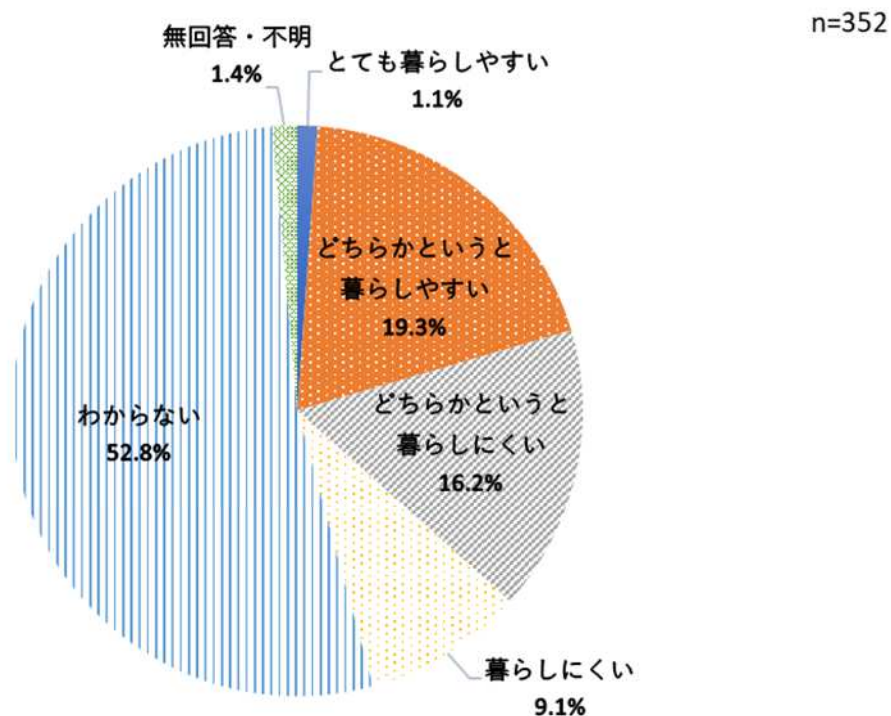


問17 あなたは、富士市は障害者の方にとって暮らしやすいまちだと思いますか。
(1つだけを○で囲む)

富士市の暮らしやすさについては「わからない」が5割以上

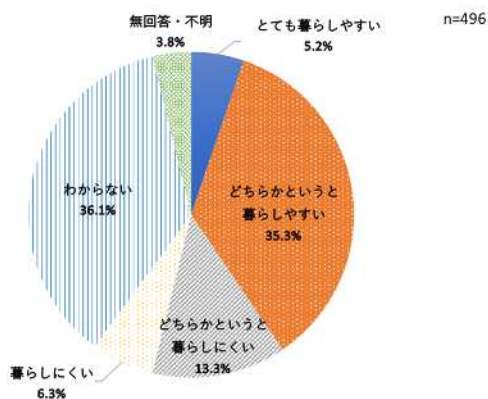
「とても暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」と回答した人を合わせると20.4%、「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」を合わせると25.3%となっています。

【全体】富士市の暮らしやすさ



<参考>

障害者手帳所持者用調査と比較すると、「とても暮らしやすい」「どちらかという暮らしやすい」と回答した人が少なく、「どちらかという暮らしにくい」「暮らしにくい」と回答した人が多くなっています。



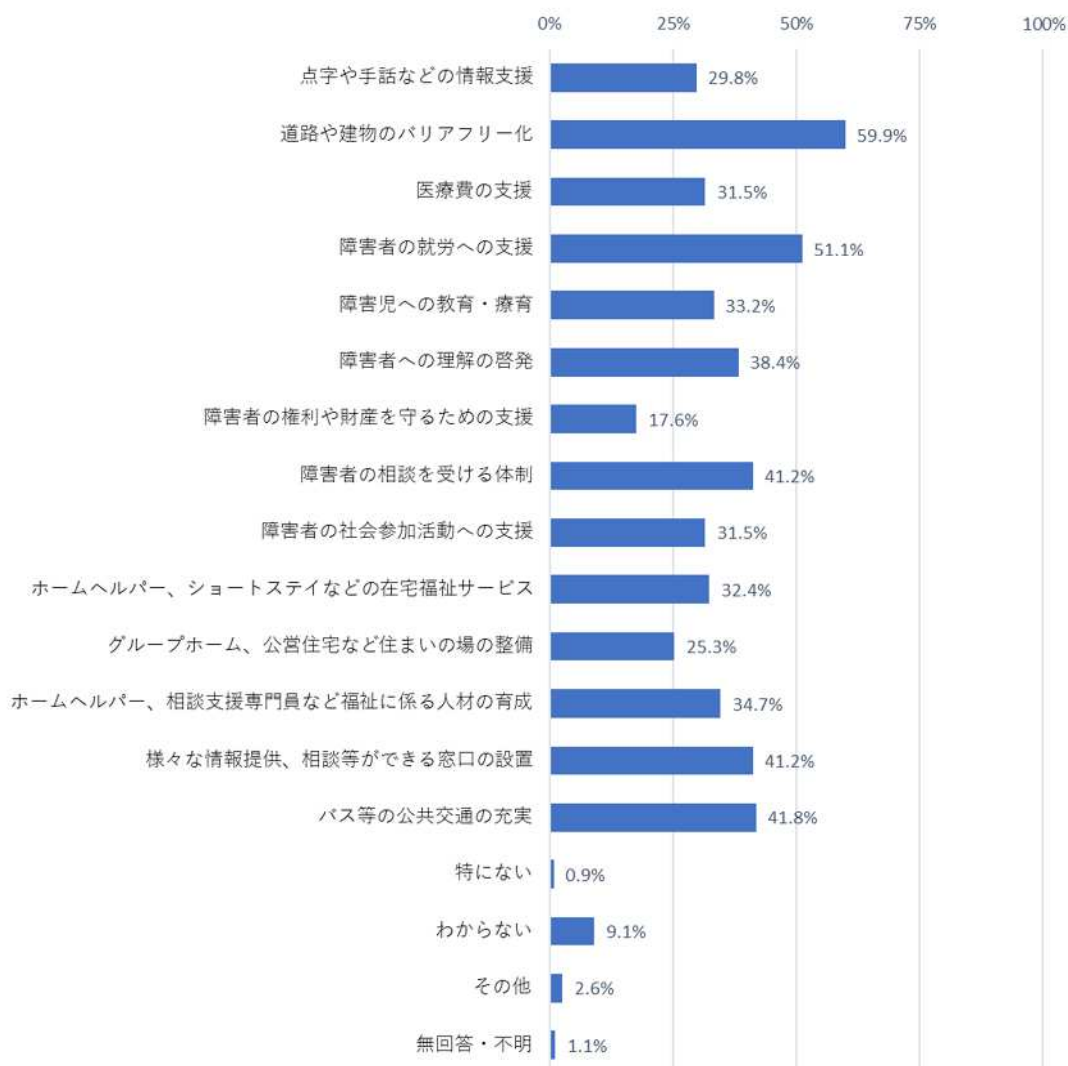
問18 富士市が、障害者の方にとって、もっと暮らしやすくなるために、何を充実したらよいと思いますか。
(あてはまるものすべてを○で囲む)

「道路や建物のバリアフリー化」が最も多い

「道路や建物のバリアフリー化」が59.9%で最も多く、これに「障害者の就労への支援」「バス等の公共交通の充実」「障害者の相談を受ける体制」「様々な情報提供、相談等ができる窓口の設置」が続いています。(参考：障害手帳所持者用調査結果 P.40)

【全体】暮らしやすくなるために何を充実したらよいか

n=352



その他・自由記載より

※ 原文のまま掲載しています。

- ・点字や手話を認識して、文字や音声にしてくれるアプリの普及・開発。
- ・障害のある方の意見を積極的に聴いて下さい。健常者にはわからない事が多々あると思います。
- ・福祉に係る人材等への十分な報酬。
- ・共生社会、障害者差別解消法、富士市手話言語条例を市民が周知するよう働きかける。
- ・健常者への手話などの教育。
- ・もっと利用しやすく公共交通の充実とタクシーの利用時の負担の軽減等。
- ・公共交通以外のインフラ整備（民間企業と共に移動手段の確保）。
- ・トータルで情報、支援を受けられる相談窓口。

問19 その他として、富士市の障害者施策、サービスなどについてご意見、ご要望を自由にお書きください。

※ 原文のまま掲載しています。

■差別解消・理解啓発・共生社会について

- 身近にいらっしゃらないのでよくわかりませんが、温かい気持ちをもって接してあげたいと思います。
- 誰でも健康な時は全く想像できない事が、障害を持ってしまった時に初めて本当に大変だ！という事が分かると思うのです。ですから富士市としては、現状の障害を持つ方の意見を十分に聴き、その方々が少しでも幸福な生活ができるようにして頂きたいと思います。
- 自分のまわりに障害者がいないので、言葉だけになっています。体が小さかったり、年令もいっているのでできる事が少ないと思いますが、できる事があったらボランティアをして勉強、手助けしたいと思います。
- 障害の害は平仮名で表記してほしいです。漢字になっているだけで、差別されていると判断してしまうからです。
- 生きやすい世の中になるようお願いしたいです。
- 富士市が障害のある人やその家族にとって暮らしやすい街になるように、市だけでなく、すべての市民が努力していきたいですね。
- 障害のない人は、障害のある人がどうしてほしいのか、何に困っているのか、やはり理解するのが難しいと思う。障害のある人当人にもっと意見を聞いて施策やサービスを考えていくのがより内容の濃いものになるのではないかと。（私の情報収集不足だと思うが、富士市が今、どんなことをしているのかよく知りません。）
- 自分自身がもしその立場にあったら生涯を悲観して、生きて行く希望を失うと思う。又家族の方達もどれだけ大変な思いしておられるかと思うと、少しでもよりそって助けてあげたいと思いました。
- 障害者を見ても、見て見ぬ振りをする人が多いと思う。ただ、それも仕方ないのかなと思う所もある。
- 障害者の方は遠慮しないで健常者に助けを求めて欲しい。そこから物事が始まっていると思います。
- こうしてアンケートを取って見ると知らない事が多すぎるなと思い非常に反省をしている。
- 富士市の障害者施策、サービスがどんなものがあるのか、市民が協力できるものがあるのか等、伝わっていない。まずは知ること、知らせることからでは？
- 子供を亡くし、多くの方に支えられ、困ったときには助けて頂いた恩返しのため、障害者ヘルパーを始めました。始めるにあたり、親に寄り添っていこうと決めました。

※ 原文のまま掲載しています。

■差別解消・理解啓発・共生社会について

- このアンケートで初めて知ることの方が多かったです。障害者の方がどんな生活・活動をしているのか知らなすぎて反省です。今、ネット社会であるこの世の中、それをSNSなどで発信して頂けたらもっと理解できたり、自分が何をしたら良いのかわかるような気がします。もし、やっているのだとしたら周知されていないという所が問題だと思う。見ための変化もありだと思うが、市民1人1人の理解が必要な気がする。
- このアンケートの内容を見て、体や病気を持つ身の事が分かっていないのではと思いながら答えました。
- 身の回りにおらず、富士市の施策やサービスについて知らないことが多いと改めて感じました。認知度を上げるために、さまざまな背景の人々をごちゃまぜにしたイベントや場所があると良いと思いました。
- 富士市が色々な取り組みをしている事をこれを見るまで知りませんでした。知らない人は多いと思います。もっと市民みんなで取り組んでいかなとなかなか変わらないと思います。これから意識して生活してみようと思いました。
- 身近に障害のある方がいれば生活の中で介助や支援をと思う。小さい頃から両親から学んだりしていると自然とできるかもしれない。大人がどれだけ障害者の方と交流していけるか、その場所などを作って広げなければ、知らないことが多すぎると思います。医療福祉の仕事をしている私も知らないことが多いです。なかなか優しい世の中にするのは難しいと思います。
- 障害者について、知らないことがたくさんある。もっと市民が知ることによって、障害者と共生しやすくなる。
- 目に見える障害を持っている人には声をかけやすいが、外面・外見でわからない障害はまだまだ私達の知らない事が多すぎる。もっと色々な障害者がいる事を世の中の人に知ってもらう事も必要だと思う。
- 障害者を持つ家族の支援が足りないというか、やさしくないと思います。
- 障害もそれぞれなので難しい問題が多いと思います。差別と思う事がすでに違っているのかもしれない。障害を持たなくても差別等あるのが現実です。全ての人々が幸せに住める富士市をお任せ致します。
- 市民への認知浸透がまだまだ不足しているので、社会全体（コミュニティー）で受け入れる素地ができていないと感じる。特別視せず接することができるマインド（風土）を作っていくことが肝要ではないかと思います。そういう市を目指すような明確な目標（ゴール）があってもよいのではないのでしょうか？
- 身近に障害者がいないと「他人事」と感じている富士市民が多いです。マインドを変えるには、非常に高いハードルと思います。
- 将来的に、障害が「ある」と「ない」で線を引いたり、扱いを変えろという考え方を無くして欲しいと思う。障害では無く、個性、特徴として扱って欲しいと思う。

※ 原文のまま掲載しています。

■差別解消・理解啓発・共生社会について

- 障害者の方々もそれぞれの考え方や性格がありますので、困ってらっしゃるかな？と思う時は「何かお手伝いありますか？」と聞いてからにしています。人によっては「自分でできる」「しようとしている」と思っている人がいるからです。余計なお世話になっては共生の意味が違っているからです。また、冷たい意見を申しますと障害者だから保障してくれとか威張ることは少し違うのではないかと思います。まだまだ障害者の方を見て見ぬふりをしていることもあるし、遅い動作に怒っている人も見かけたことがあります。健常者も障害者も同じ人間ということから、差別なく普通に生活できて、困ったことがあったらお互い様という思いで、言葉かけも大切なのではないでしょうか？昭和～令和 時代も変化してきていますが、再度「愛ある行動」が大切だと私は感じています。
- 世間の障害がある人に対する意識がどの程度か知らないが、障害の有無にかかわらず助け合える風潮になるとよいと思う。もちろん、障害の無い人が有る人を助けることもあるが、有る人同士の助け合いや、有る人が無い人を助けるような意識があっていいと思う。有る人が無い人から助けられるのは当たり前という意識は全く誤りだと思う（そもそも助けてもらえば感謝することはもちろん、してもらってありがたいことよりも、されて嫌なことをしないことの方が大事だと思う。）ので、その辺の意識のバランスは図りながら施策をすすめてほしい。
- 身近に障害者の方がいないので、どちらかと言うと、あまり市で進めている行事等、全く知りませんでした。ただ、困っている方やあぶなそうな時は、声をかけようと思っています。市でさまざまに推進しているのは、分かったが、推進しているから良いと言うわけでないと思います。障害のある方の意見が重要だと思います。どうして欲しいかなど、耳をかたむけては。（問 10.4 と答えたことについて差別ではなく、無関心だと思う）
- 私の勤めている会社には障害者と云われている方が数名勤務しています。障害者だからと特別扱いや手を差し伸べることを嫌う人。障害者なんだからと主張する人。と様々です。障害者手帳を持っていなくても1人で生きていくことが困難な人は、たくさんいます。身体が辛くても食べていくためには、無理をしてでも働かなければならない人がいることも踏まえて、もっと考えてほしいですね。
- 「障害者」と呼ばれて不快に思われる方が居ると思うので、「体の不自由な方」「手助けがいる方」などの、言い方が良いのかまよう事がある。
- 健常者と障害者が共生しているという実感があまりない。図書館もバスもまちセンもよく利用するがあまり出会ったことがない。なので困っている様子もあまり見ない。障害者がすみよい町なら、ふつうに町に出てきているものだと思うが。アンケートを通じて、そういえばあまり出会わないな、と感じた。（他の市に居た時とくらべて）（いいのか、わるいのかはわからない）
- 障害者といっても種類もいろいろあるし、等級（重さ）等もあるので、一概に、こうした方がいいとは、言いにくい。外に出られない人もいたりとか...そういう人は、他人の目から見えにくいので、全部の障害者を普通の人と同じように...共にということは、無理のような気がします。

※ 原文のまま掲載しています。

■相談体制・情報提供・手続き等について

- 親族に聴覚障害者がいます。日常生活で困ったことがあると、相談されます。今までは全て、私や妻が解決してきましたが、気軽に相談できる窓口があれば、私達も心強いです。情報が手に入らない、どこに相談すれば良いのかわかりません。もっと広く情報を発信してください。
- 障害者が遠慮せず相談や助けを求められる環境を広げられたら良いと思います。
- どのような症状が障害者に該当するのか分からない。その様な判断は病院でしてくれるはずだが、してくれないケースもある。そこを仲介する様な窓口があってもいいのでは？
- サービスの提供を受けるまでに行う手続き等の簡素化。
- 子供の発達障害、不登校で悩んだ際に療育センター、教育プラザに相談させていただきました。とても素晴らしい対応に感謝しています。誠にありがとうございます。
- さまざまな障害があるが、発達障害のある小、中、高校生にとって富士市は暮らしやすいとは言えない。情報は散在しており教育プラザに行っても欲しい情報は十分に得られない。見た目はサービスを提供しているようで中身は実際に追いついていない。困っている子ども、家族に必要なサービス情報が統一しておらず右往左往し自力でサービスを見つけしがみついている現状。
- 発達障害や知的障害のある子どもに対して発達センター以外の相談場所や療育場所についてももっと周知されると良いと思う（児発など）。
- 子供が生まれ、耳が聞こえないかもしれないと退院時に言われた時、富士にはろう学校がない、耳に関する支援を受けるには沼津か静岡でと言われた時に、どのように育てて、生活していけばよいのかまったく先がみえず、不安でした。（結果、耳に異常はありませんでしたが。）
- 引っ越ししてきて、月日があさいので、よくわからない。富士市に転入してきた方にも、もっと知ってもらう方法が、あるといいと思います。
- 市の職員にも未熟さを感じるので、そのような勉強をして、率先して障害者に優しい街づくりをしてほしいです。
- 障害のある方の意見を積極的に聴いて下さい。健常者にはわからない事が多々あると思います。

※ 原文のまま掲載しています。

■教育の重要性について

- 学校での子どもたちや保護者が、障害者についてもっと知ったり、ふれ合いの場をもったり、共に暮らしていくには〇〇、共に学んでいくには〇〇、など考える場をたくさん設けたらよいのではと思います。
- 中学から障害者の理解を深めるために、障害者についての授業を行ったりしたら良いかと思います。
- 福祉行政に携わる方の資質と熱意、政治家への資質の熱意が本気にならない限り始まらない。差別の問題とて然りだ。幼・小児の頃から、時間や人員を費やして、教育をやっている人は、一見健常者であっても心の障害者となっている人も（いじめの人等）少しは減るという考えを持っています。保育士・教員・実際に人と関わる方達の労働環境を良くしなければ向上はむずかしい。老人や障害児（者）に携わる方々の仕事の大変さは、裾野市で保育士が問題となったが、全てと言っても過言でない程、現場では、起きています。程度や、悪意のある無しは重要ですが。子どもの頃から道徳や、障害に関しての教育をしっかりしていけば、『困ったときはお互い様』の精神であれば、障害者、健常者の区別は少なくなるし、福祉にもっとお金をかけて充実させるポイントがはっきりしてくるし、人と人のつながりが強化される事によって、逆に予算をかけなくてもよい所が出てくるという考えを持っています。未来は子どもが作ります。その子どもに、どのような人がどのように教育していくのかが、大事なのではないでしょうか。福祉関係者がいくら発信に努力しても、さほど発展しないのではないのでしょうか。力を入れるところが、目先ではなく、源に。と思います。
- 身近に障害のある方がいないと興味・関心が及ばない事が多いですし、マークの理解もむずかしいと思います。子供達の学校教育の中に障害者マークや支援など授業で勉強できたらいいですね。
- 子供の頃（小学校低学年）から障害者に対する啓発が大切だと思います。私は 60 台ですが学校で教育を受けた記憶がありません。
- 障害者施策として、小学校くらいから、子ども達に理解をさせる授業を通して共生の社会としての取り組みをする。
- 子供のころからの、教育に盛り込み、自然に思える様、教育で生活、環境を自然に。
- 手話や点字を広めたり（学校などで）した方が良い。情報など富士市民が観れる TV 番組や情報番組（YouTube など）などがあればおもしろい。（障害のある人ない人関わらず...）

※ 原文のまま掲載しています。

■就労について

- 障害の方の不安を少しでも軽減出来るような世の中になってくれる事を望みます。就労支援など居場所を作ってほしいと思います。
- 社会福祉施設での就労やサービスは、富士市はとても進んでいて良いと思います。ただ一般の職場への就労やサービスは、まだあまり進んでいないと思います。これからは、一般の職場への就労やサービスの発展を期待します。
- 仕事が見つかってもらっても給料面で一般の人と差がある為、もう少し給料が上がると生活もしやすいと思います。
- 障害の度合いにもよるが、就職支援の拡大はどうなっているのか？自立支援について、障害年金の受給が出来ない人（グレーゾーン）も生活が充実しているのか？
- 発達障害者に対しての就労支援をもっと充実してほしい。現実には厳しくなかなか一般企業への就職は難しい（できない）。
- 障害者が行っている就労の賃金がとても安いと聞いていますが仕事出来る人にはもっと上げてほしいと思います。
- 障害者の就労は、かなりキビしい状況なので、もっと市や行政が手厚い支援をした方が良いと思います。

■障害者施設について

- 身体障害者への対応支援は、市民にもわかりやすく、施設等の改善もされていると思う。自閉症等の心の障害をもっている方々へは一目で分かりにくいところもあり、また、心が乱れたときに見られる乱暴な行動等への対応にも苦慮すると思われる。心の障害者への支援や医療的ケアができる施設を公的に増やしていく必要があると思う。
- 富士市は他県よりいろいろな面に対して、福祉・設備が悪いと思う。空いている土地なりを福祉の為に富士市でもっと活用して、色々なデイサービスの用な建物を増やして大勢の人が行けるようにと思います。
- 気軽？に行く事が出来る施設。

■障害者に関するマークについて

- このマークを知らない人が多いから町内、各個人に配布した方が良いと思う。
- アンケートを代筆した者です。「障害者に関するマーク」ですが、見たことはあっても意味がわかっていませんでしたが、この一覧でとても勉強になりました。
- 障害者に関するマークなど知らない物がいくつかありましたので、広く知ってもらおう事をしたら良いかと思います。

※ 原文のまま掲載しています。

■ バリアフリー・公共交通について

- 駅やバス停などのバリアフリー化や歩道などの整備をもっとしたほうがよいと考えます。
- ①タクシーの無料化②歩道の整備③重度障害者には判断能力がない人及び判断能力があっても全然自分では動くことの出来ない人もあり、多種多様です。少しでも好い方向に向けてがんばって下さい。応援しています。
- 歩道が整備されていないところが多く、移動しづらい。
- 道などが狭い。もう少し大きくしたら良い気がする。
- 歩道の充実。狭い歩道を車いすで通っていたり、歩道のない道を車いすで通っていたり、歩道の段差に苦労している姿を見て、もっと生活しやすい環境にならないかなと思います。
- 夜でかけるときに暗いと、どこからが歩道で、どこからが車道か正確にわからないと思うので、暗い所や危険だと思われる場所には街灯を増やしたり、設置をしたりすると目の見えづらい方も安全に目的地まで行くことができると思いました。
- 職場のお客様の意見ですが、富士市は道路のバリアフリーが少なく車イスだと動きづらそうです。
- レストランのテーブルと椅子の間が狭い店が多く車イスが入らないそうです。視覚障害の方は買い物が不便です。質問ができないので。コロナ禍でマスクをしていて、口の動きも分からないそうです。(私は紙とペンを渡しますが...)
- 普段、道路（歩道が分けられてない場所）やスーパー入口付近を歩きや自転車で走行中、車は止まれるスピードで走っていなかったり、他の人でも危険な目にあっているのを見た事があります。
- ハード面での対策をしていただけると障害者の方も健常者も安心して暮らせる町になると思います。
- 段差の多い歩道などがほとんどで、外出しづらいのではないかなと思っていました。これは障害者だけでなく、高齢者にも優しくないことだと感じます。
- 車椅子が入れるスペースが大きなトイレがありますが、あってもドアが重く大きくて大変ではないかと思いました。重いドアなどは身体障害の方が利用するのは大変だと思うので、あれば改善指導などしてくださるといいなと思いました。
- 横断歩道の歩行者用信号で、音が鳴らない、もしくは待ち時間表示装置が付いてないものがあるので、対応した信号機に変えていくべきだと考えます。
- 富士市内の歩道や自動車道は健常者でも通りにくいです。(狭い、段差がある、歩行者用道路がない、でこぼこしている) 車イスやベビーカー、耳・目が不自由な人にとってはなおさら、危険で外出もままならないのではないのでしょうか。道路の整備を是非お願いいたします。
- 富士市の公共施設においてもバリアフリー化にはほど遠いと感じる。市の職員にも未熟さを感じるなので、そのような勉強をして、率先して障害者に優しい街づくりをしてほしいです。

※ 原文のまま掲載しています。

■バリアフリー・公共交通について

- 富士市に限らないが、「障害者のための国際シンボルマーク」を駐車場で悪用する人が多い。全く障害のない人が駐車している。(目に見えない障害とかではなく明らかに健常者) 外でのトイレの充実。あとはオストメイト対応のトイレや、男性トイレのゴミ箱の設置など、外出先でのトイレの心配がないようにトイレを増やす。
- 富士市の問題だけではないのですが、車につける害者マークが市販されているので、誰でも買うことができてしまいます。障害者手帳発行時などで、申請すれば手に入るようにすれば、健常者が買ってつけることも減るし、障害者用駐車場に堂々と停める健常者の車も減るのではないのでしょうか。お年寄りや、お年寄りイコール障害者という考えの方も多く見られます。
- 事業所に通所する場合時間的な面、コミュニティーバスの本数(朝・晩)を増やしてほしい。痛切に感じています。
- 地形的に自動車をもっていないと移動がしづらいので公共交通は改善すべきだと思う。
- 障害者だけでなく高齢者等、多くの方がバス等の公共交通を必要としています。外に出たいのに交通手段がなく、家に引きこもっている方がいます。バス等、公共交通機関を充実させて下さい。
- 交通の便、考えてほしい。障害者マークを利用?している人、ちょっと考え直して。悪用しないで!(マークがついていればいいという考えやめて!)
- 障害を持った方が外出しやすいような街づくり(音声で知らせる、点字ブロック etc.バリアフリー化)にもっと取り組んだ方が良いと感じています。オンラインも活用してはいかがでしょうか。

※ 原文のまま掲載しています。

■ 「支援者」支援について

- 富士市の障害者の方々に十分な支援をするために、そういった仕事にかかわる人達の生活もしっかり保障できたら良いと思います。
- 福祉に係る人材等への十分な報酬。
- 障害者を支援する方の人材育成、金銭的補助の面、考えてやってほしい。労働の大変さ、見直して！
- 超少子高齢化の日本にとって人材不足はどの業界でも大きな問題です。あらゆる事に人材育成が必須ではありますが、機械の自動化やサポートアプリケーションによって、人間の負担を減らす事も重要だと考えます。障害者の補助はとても大切ですが、その結果、市の相談員や専門の方が大きな負担をならぬよう、多角的な施策やサービスが求められると思います。
- 障害をお持ちの方々、又は、組織の方々との定期的な意見交換の場を持っておられると思いますが、それらの方々の思いはどのように、施策面に反映されているのか。又、彼らの思いは一般の方(市民)の目にふれる事はあるのでしょうか。彼らの思いが全て一般の方に通じるとは思っていませんが、彼らをとりにくく状況の一端でも知る事が出来れば、関心の度合いも幾分変わってこようかと。市町村レベルの話ではない事は承知していますが、高齢者・障害者の利用施設(器)は、増加してきていますが、そこに携わるスタッフは充足しているのでしょうか。今、様々な業界で人手不足が言われていますが、殊更、福祉業界では深刻ではないでしょうか。給与云々は難しい話ですが、働く側の個々のニーズに合わせた勤務の形の構築など、手をつけられるところから着手する事も必要かと。

※ 原文のまま掲載しています。

■その他

- 障害者の方とその家族の方、そして市の支援担当者、その3者が納得のいく迄話し合い、答えを出す。その為の協力は惜しみません。
- 障害者に対して、どう接していいのか、その人が障害者なのか分からない事があるので、障害者の方にはマークやキーホルダーなど分かりやすいシンボリックな物を付けてほしい。アンケートも今どき、紙ではなくネットにした方が地球に優しい。
- ヤングケアラーの存在は、とっても気の毒に思い、なんとかしてやって欲しいと思う。障害者に対して、直接的な支援があれば、“ヤングケアラー”もなくなるのか？
- 当事者にならないかぎり障害者の事は考えられないと思う。なぜならそんな余裕はないからだ。障害者の施策に限らずボランティア頼みのものは一度見直した方がいいと思う。
- 来るであろう有事の際の障害者保護の施策を。
- 富士市に生まれ、90才近くになります。とても住み良い町ですので、障害者の方達に何か一つでも出来る趣味がもてたら楽しく過ごせるのではと、思う事があります。
- 障害者や老人のため、楽しいことへの参加を支援。例えば花火大会や楽しいイベントにマイクロバス等での送迎。
- 手話を充実させる。周りを覚える教室を行なう。
- 申しわけありません、障害者が自分の身の回りにいるのか認識できていないので回答に困りました。ただ、精神を病んでいる人の対応に苦慮している話はけっこう聞きます。協力できなくてすみません。
- 私は鬱で病院へ通院しています。近年、物価、電気代 etc...高騰している中、医療費の支援を受けることが出来て助かります。ありがとう御座います。
- 現状、幸いにも自分自身の身体的に不自由がないため、建設的意見もありません。
- 送付されてくる用紙の内容をもっとわかりやすくしてほしい。